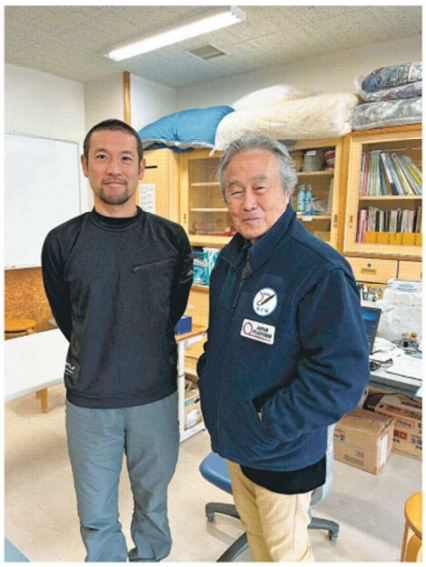
年　組　番号(　　)　名前

輪島で地震・豪雨被災

頑張る診療所 再建協力

「二重被災」の診療所に再建の手助けを―。白河市の一般社団法人「こころのケアまごころ」は、昨年に発生した能登半島地震と豪雨で被災した石川県の診療所にエックス線装置（レントゲン）を寄贈する計画を立てている。代表理事の玉手幸一さん(76)は「医療面で被災地復興の一助になれば」と力を込める。



大石さんの診療所の再建を支援する玉手さん㊨。「復興の一助になれば」と語る＝石川県輪島市町野町

白河の団体、レントゲン寄贈へ

玉手さんの団体が支援しているのは、石川県輪島市町野町にある地区唯一の診療所「粟倉医院」。市中心部から東へ約17キロ離れた場所で、院長の大石賢斉さん(44)は約1700人が住む地域の医療を支えている。

地震や豪雨に見舞われ、診療所を解体した。大石さんは「自然の力は人間の理解を超えるものだから不思議ではない」と冷静に受け止める。現在は近くの東陽中の保健室に臨時診療所を設けて診察を続けている。

石川県の奥能登地方4市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）を管轄する能登北部医師会によると、33あった医療機関のうち、豪雨の影響で珠洲市の個人クリニック1軒が廃業したという。同医師会長の千間純二さん(65)は「輪島市以外の3市町は地震前とほぼ変わらない状況までに戻った」と話す。

玉手さんの団体は国内の災害や海外での紛争などで避難している住民を医療支援する活動を行っている。昨年1月の地震発生直後、被災地はボランティアの受け入れを制限していたが、玉手さんの団体には医療関係者が多く、行政や医療機関とのつながりがあることから早い段階で現地入りすることができた。大石さんとの出会いは2月。メンバーの看護師を災害支援の応援で粟倉医院に派遣させたことをきっかけに交流が始まり、玉手さんはこれまで15回ほど現地を訪れた。

再建に向けて動く中で、玉手さんは「レントゲンが必要そうだ」と関係者から要望された。レントゲンの設置は1台500万円ほどかかる。「新しい診療所を建て直す建設費などで負担が大きいと思った。人的支援のほかにも、経済的な支援も必要でないか」。購入にはNPO法人ジャパン・プラットフォーム(東京都)からの助成金と寄付金を活用する。

新しい診療所は今月14日に工事が始まり、6月ごろの完成を目指している。大石さんは「住民が幸せに過ごせる環境づくりに努めたい」と意欲を見せる。玉手さんは「診療所の機能が回復することで地域の役に立つことができればうれしい」と期待を込める。

（小山璃子）

大石さんの診療所の跡地。地震と豪雨の爪痕が残る

▲ 1月21日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

皆さんも学校などで能登地方の方々への支援等を行ったと思いますが、玉手さんの団体の熱い思い、素晴らしいですね！

福島民友投稿のページ「窓」に送る